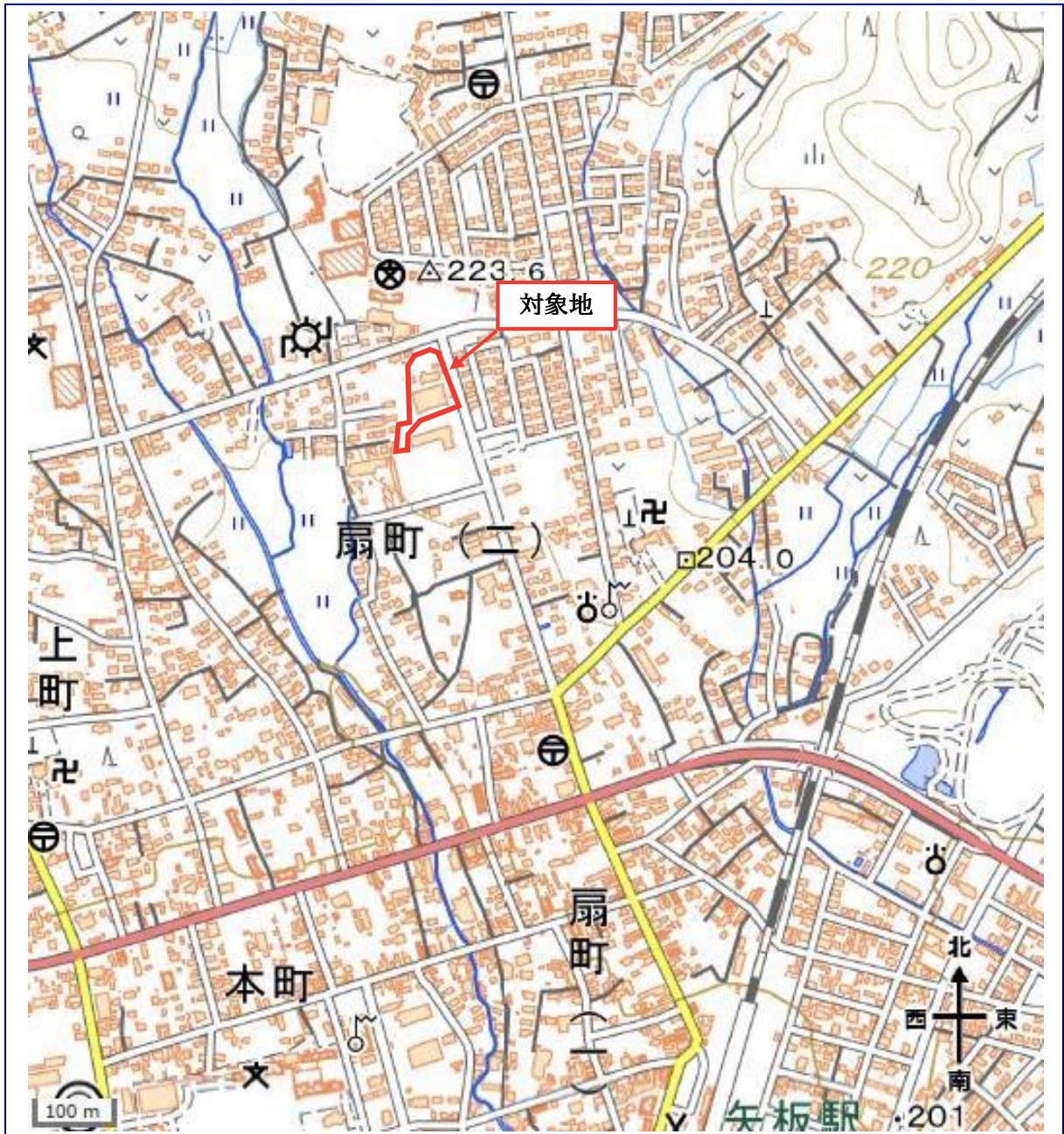


整理番号	令-5-4	指定年月日・指定番号	令和5(2023)年5月30日 形-29	所在地	矢板市扇町二丁目1519番23及び1519番140の各一部	
調製・訂正年月日	令和5(2023)年5月30日					
形質変更時要届出区域の概況	工場跡地			面積	288.125 m <sup>2</sup>	
法第14条第3項の規定に基づき指定された形質変更時要届出区域にあっては、その旨				-		
最大形質変更深さより1メートルを超える深さの位置について試料採取等の対象としなかった土壤汚染状況調査の結果により指定された形質変更時要届出区域にあっては、その旨、当該試料採取等の対象としなかった深さの位置及び特定有害物質の種類				-		
土壤汚染のおそれの把握等、試料採取等を行う区画の選定等又は試料採取等を省略した土壤汚染状況調査の結果により指定された形質変更時要届出区域にあっては、その旨及び当該省略の理由				-		
汚染の除去等の措置が講じられた形質変更時要届出区域にあっては、その旨及び当該汚染の除去等の措置				-		
第58条第5項第10号から第13号までに該当する区域にあっては、その旨				-		
形質変更時要届出区域内の土壤の汚染状態	報告受理年月日	指定に係る特定有害物質の種類		適合しない基準項目		指定調査機関の名称
	令和5(2023)年 3月9日	鉛及びその化合物		含有量基準・溶出量基準・第二溶出量基準		(株)フィールド・パートナーズ
				含有量基準・溶出量基準・第二溶出量基準		
				含有量基準・溶出量基準・第二溶出量基準		
				含有量基準・溶出量基準・第二溶出量基準		
				含有量基準・溶出量基準・第二溶出量基準		
土地の形質の変更の実施状況	届出(着手)時期	完了時期	土地の形質の変更の種類	実施者	土壤搬出	汚染土壤の処理方法
					有・無	
					有・無	
					有・無	
					有・無	

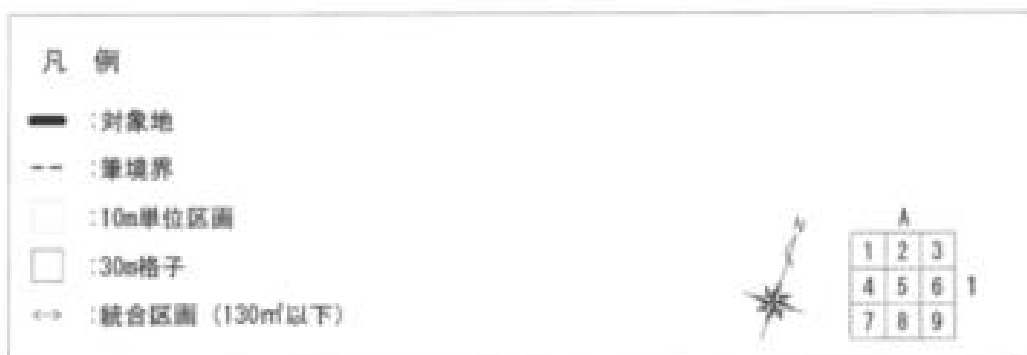
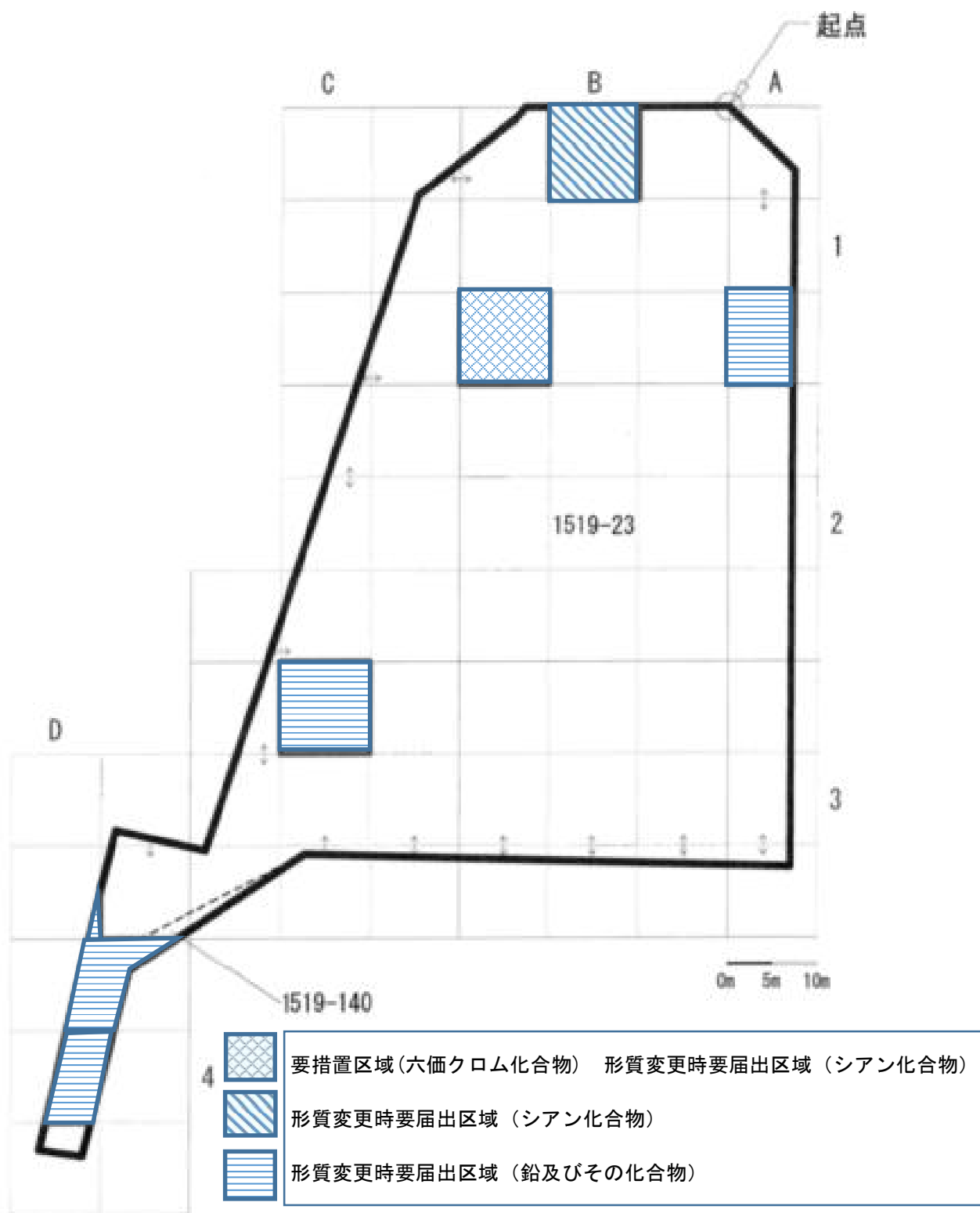
備考1 この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。

2 「形質変更時要届出区域内の土壤の汚染状態」については、土壤その他の試料の採取を行った日、当該試料の測定の結果等を記載した書類を添付すること。

対象地位置図



出典：地理院地図  
(<http://maps.gsi.go.jp/>)





凡例

【第一種特定有害物質】

十 土壤ガス調査地点：26地点

【第二種特定有害物質 (Se, B以外)・有機りん】

● 表層単地点分析：20地点

○ ピット下・旧表土調査地点：14地点

□ ポーリング調査地点：4地点

六価クロム化合物溶出量基準不適合区画  
(溶出量基準：0.05mg/L以下)

シアン化合物溶出量基準不適合区画  
(溶出量基準：検出されないこと)

鉛含有量基準不適合区画  
(含有量基準：150mg/kg以下)

統合区画 (130㎡以下)

調査対象地

既存建物

過去建物

ピット (既存建物)

ピット (過去建物)

架空配管

埋設配管

盛土想定範囲



A	1	2	3
	4	5	6
	7	8	9

起点



B1-2 シアン化合物 (溶出量)

深度	表層	1.0m	2.0m	3.0m	4.0m	5.0m	5.5m	地下水
<	<	<	<	<	<	<	<	<

B1-7 六価クロム化合物 シアン化合物 (含有量)

深度	表層	1.0m	2.0m	3.0m	4.0m	5.0m	地下水
<	<	<	<	<	<	<	<

B2-5 テトラクロロエチレン トリクロロエチレン トリクロロエチレン トリクロロエチレン

深度	クロロエチレン	トリクロロエチレン	トリクロロエチレン	トリクロロエチレン
0.5m	<	<	<	<
1.0m	<	<	0.005mg/L	<
2.0m	<	<	0.007mg/L	<
3.0m	<	<	<	<
4.0m	<	<	<	<
4.8m	<	<	<	<
地下水	0.0072mg/L	<	0.007mg/L	<

B2-5 テトラクロロエチレン (土壌ガス)

0.1volppm
-----------

D4-3 鉛 (含有量)

深度	表層	1.0m	2.0m	3.0m	4.0m	5.0m	6.0m	6.2m
<	<	<	<	<	<	<	<	<

D4-5 鉛 (含有量)

深度	表層	旧表土
<	25.5mg/kg	110mg/kg
0.3m	<	<
0.6m	<	<

A1-7 鉛 (含有量)

深度	表層
0.1.3m	27mg/kg
0.6m	<

【動土履歴、建物・設備形状の掲載資料】

Ver.1.0 敷地形状は地籍測量図、建物形状は現地測量に基づいた。

プロジェクト名

栃木県矢板市岡町2丁目敷地における土壌汚染状況調査

タイトル

既往土壌調査結果図

スケール

1/800 (A4)

図面

巻末図ー1

株式会社フィールド・パートナーズ

凡 例

【テトラクロロエチレン、トリクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,2-ジクロロエチレン、1,1-ジクロロエチレン、クロロエチレン、ベンゼン】

+ 土壌ガス調査地点：12地点

【土壌汚染のおそれの区分の種類】

- 土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる土地
- 土壌汚染が存在するおそれが少ないと認められる土地

--- 土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる埋設配管

既往土壌調査地点

【第一種特定有害物質】

+ 土壌ガス調査地点：26地点

【第二種特定有害物質 (Se, B以外)・有機りん】

- 表層単地点分析：20地点
- ピット下・旧表土調査地点：14地点
- ボーリング調査地点：4地点

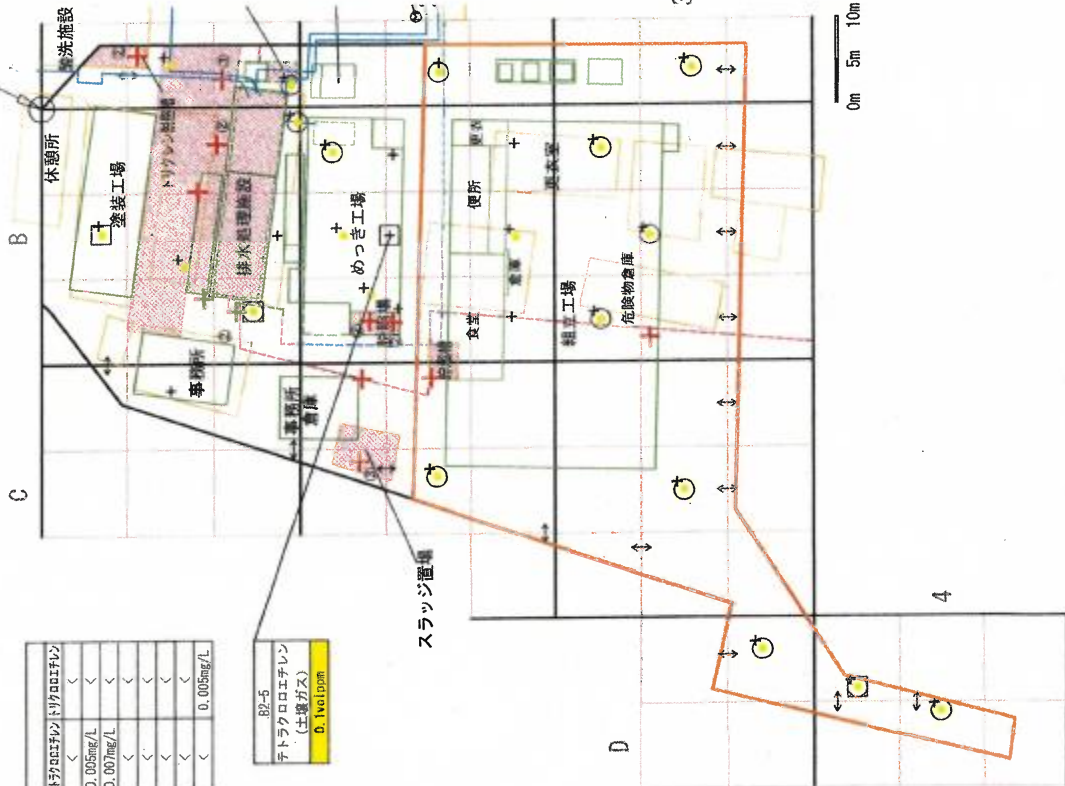
← 結合区画 (130㎡以下)

- 調査対象地
- 既存建物
- 過去建物
- ピット (既存建物)
- ピット (過去建物)
- 架空配管
- 埋設配管
- 盛土想定範囲



A	1	2	3
B	4	5	6
C	7	8	9

起点



深度	クロロエチレン	トリクロロエチレン	トリクロロエチレン/トリクロロエチレン	トリクロロエチレン/トリクロロエチレン
表層	<	<	<	<
0.5m	<	<	0.005mg/L	<
1.0m	<	<	0.007mg/L	<
2.0m	<	<	<	<
3.0m	<	<	<	<
4.0m	<	<	<	<
4.8m	<	<	<	<
地下水	0.0012mg/L	<	0.007mg/L	<
			0.005mg/L	<

B2-5  
テトラクロロエチレン  
(土壌ガス)  
0.1mg/L

プロジェクト名 栃木県矢板市扇町2丁目敷地における土壌汚染状況調査

スケール 1/800 (A4) 表層調査地点図

ページ 巻末図一3

株式会社フィールド・パートナーズ

【敷地境界、建物・設備形状の根拠資料】

Ver.1.0 敷地形状は地探測調査、建物形状は現地測量に基づいた。

凡例

【カドミウム、油分】  
表層土壌調査地点

● 単地点分析：6地点

⊕ 5地点均等混合法：10エリア  
(32地点)

○ 配管下地点：4地点

○ ピット下地点：6地点

【土壌汚染のおそれの区分の種類】

■ 土壌汚染が存在するおそれ比較的多いと認められる土地

□ 土壌汚染が存在するおそれが少ないと認められる土地

— 土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる架空配管

- - 土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる埋設配管

既往土壌調査地点

【第一種特定有害物質】

+ 土壌ガス調査地点：26地点

【第二種特定有害物質 (Se, B以外)・有機りん】

● 表層単地点分析：20地点

○ ピット下・旧表土調査地点：14地点

□ ボーリング調査地点：4地点

↔ 統合区画 (130㎡以下)

□ 調査対象地

■ 既存建物

■ 過去建物

■ ピット (既存建物)

■ ピット (過去建物)

— 架空配管

- - 埋設配管

■ 盛土想定範囲



A	1	2	3
	4	5	6
	7	8	9

起点



※B1-7②はピット下として2深度調査

【敷地境界、建物・設備形状の参照資料】

Ver. 1.0 敷地形状は地籍測量図、建物形状は現地測量に基づいた。

プロジェクト名

栃木県矢板市扇町2丁目敷地における土壌汚染状況調査

スケール

1/800 (A4)

タイトル

表層調査地点図 (カドミウム、油分)

図

巻末図ー3

株式会社フィールド・パートナーズ



起点



B1-7	
六価クロム化合物 (濃度)	
深度	<
表層	<
1.0m	<
2.0m	<
3.0m	<
4.0m	<
5.0m	<
地下水	<

※B1-7②は配管下、ピット下として、B2-1③は配管下として2深度調査

凡例

【六価クロム、油分】  
表層土壌調査地点

● 単地点分析：10地点

⊕ 5地点均等混合法：10エリア (30地点)

○ 配管下地点：8地点

○ ピット下地点：7地点

【土壌汚染のおそれの区分の分類】

■ 土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる土地

□ 土壌汚染が存在するおそれが少ないと認められる土地

— 土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる架空配管

- - 土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる埋設配管

既往土壌調査地点

【第一種特定有害物質】

+ 土壌ガス調査地点：26地点

【第二種特定有害物質 (Se, B以外)・有機りん】

● 表層単地点分析：20地点

○ ピット下・旧表土調査地点：14地点

□ ポーリング調査地点：4地点

六価クロム化合物溶出基準不適合区画 (溶出量基準:0.05mg/L以下)

↔ 統合区画 (130㎡以下)

□ 調査対象地

□ 既存建物

□ 過去建物

□ ピット (既存建物)

□ ピット (過去建物)

— 架空配管

- - 埋設配管

□ 盛土想定範囲



A	1	2	3
B	4	5	6
C	7	8	9

【敷地境界、建物・近隣形状の根拠資料】

Ver. 1.0 敷地形状は地積測量図、建物形状は現地測量に基づいた。

株式会社フィールド・パートナーズ

プロジェクト名

栃木県矢板市扇町2丁目敷地における土壌汚染状況調査

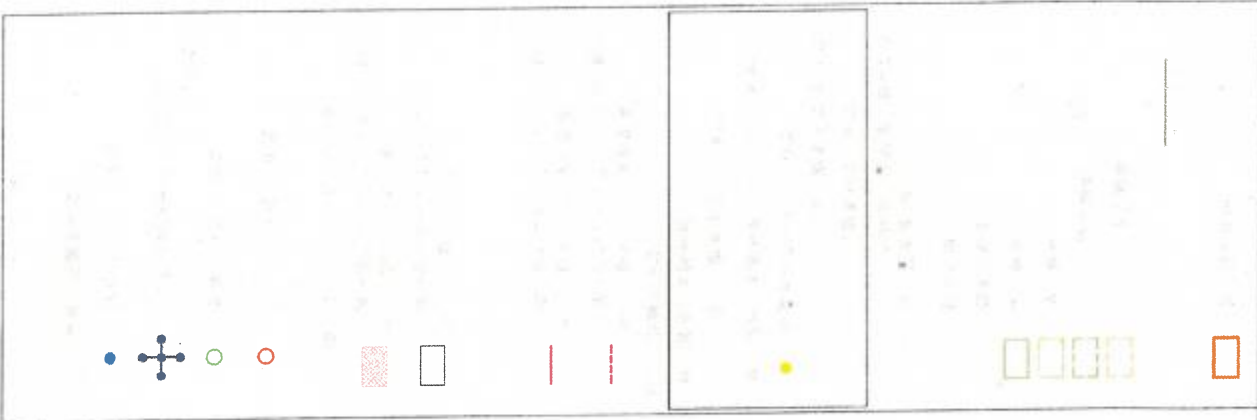
スケール

1/800 (A4)

タイトル

表層調査地点図 (六価クロム、油分)

巻末図ー3



控出庫
0.2m

庫
0.2m
地下室















































